

金属3Dプリンター 造形品試験

中小製造業向け拡大

神戸工業試験場

【神戸】神戸工業試験場（兵庫県播磨町、鶴井昌徹社長、079・435・5010）は、金属3Dプリンターで製造した造形品の強度試験や特性分析の提案を、中小製造業向けなどに拡大する。プリンターを導入した中小製造業の試験需要が増えていることに対応する。2021年までに約3億円を投じ、疲労試験機など設備を増強する計画だ。同事業の21年12月売上高は、18年12月期比5倍の5億円を目指す。



13年から自動車メーカーなど既存顧客向けに3Dプリンター造形品の試験を手がけ、蓄積した試験データから、造形品の強度と欠陥の程度についての相関関係を明らかにしている。国内で金属3Dプリンターの利用が拡大するに伴い、試験

需要を取り込む。展示会などを通じて試験事業を周知し、金属3Dプリンターの活用を始めた中小製造業向けにも提案を広げる。

神戸工業試験場は機械設備などさまざまな製品に使われる材料の特性評価・解析を手がけ、材料の用途に合わせた試験方法を顧客に提案する。

造形品の場合は引っ張り試験や疲労試験などによって生じた破断面の密度や粒径分布といった組織を観察する。そこから造形品表面の粗さ、内部に生じる未溶融部分や空隙などの欠陥を分析し、破断要因や品質評価について報告する。

▲
中小製造業向けに金属3Dプリンター造形品の強度試験を拡大